

磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

政 党 助 成 3 5 4 億 円 使 う

共産党除く
9党の昨年分
ため
込みも147億円

総務省は26日、2013年分の政党助成金の使途報告書を公表しました。

同年に政党助成金を受け取った自民党、民主党、公明党、日本維新の会（今年7月解散）、みんなの党、生活の党、社民党、新党改革、みどりの風（13年12月解散）9党の支出総額は354億8447万円で、12年に比べ16%増。初のインターネット選挙解禁となった参院選もあり、選挙関係費と宣伝事業費は支出総額全体の44.2%（12年比12.5ポイント増）を占めました。日本共産党を除く各党が国民の税金を選挙で湯水のように使ったことが浮き彫りになりました。

また、9党が使い残した政党助成金を国庫に返納せずのために込んだ基金残高の総額は147億5307万円。うち7割近くが民主党のため込みです。

民主党は選挙関係費と宣伝事業費で計68億512万円を支出。自民党の55億8272万円、公明党の11億2630万円などを大きく上回り、9党で最多。同党はテレビCM、新聞広告料などで広告代理店大手の博報堂と電通Y&Rに計48億6054万円を支払いました。

自民党は、同党直属の広告代理店として発足した自由企画社に

9政党が政党助成金から支出した総額と基金残高		
政党名	支出額	基金残高
自 民 党	143億7936万円	16億7348万円
民 主 党	132億2202万円	100億7710万円
維新の会※	20億7667万円	8億7873万円
公 明 党	27億1661万円	9億3400万円
みんなの党	14億7409万円	9億8455万円
生 活 の 党	7億7606万円	1180万円
社 民 党	6億4042万円	1億6653万円
新 党 改 革	1億1817万円	2688万円
みどりの党※	8096万円	0円
計	354億8447万円	147億5307万円
千円以下は切り捨て ※は現在解散している政党		
日本共産党	政党助成金は廃止を主張し、受け取らず	

26億9851万円、同じ身内企業の世論調査会社、日本情報調査に調査費として7654万円、電通に7億4701万円をそれぞれ支出しました。

13年から政党助成金の交付対象になった日本維新の会は供託金で1億799万円を支出したのをはじめ、大阪維新の会に3000万円を寄付。12年に日本維新の会に合流した、太陽の党の政党助成金のため込み分約7000万円のうち約5000万円が寄付・借り入れ利息として日本維新に渡っています。

日本共産党は、税金を政党が山分けする政党助成金を国民の思想・信条の自由を侵し、民主主義をゆがめるとして一貫して批判。みずから受け取りを拒否しています。

2014年9月27日(土)

政労使会議あす再開
賃金体系・残業代ゼロを
議題に 賃下げ狙う財界

政府と財界、労働界の代表らによる「政労使会議」が29日に再開されます。「企業収益の拡大を賃金上昇につなげていく」として賃上げを打ち出した前回の合意（2013年12月20日）とは一変し、安倍内閣と財界は「賃下げ」を押し付ける姿勢をあらわにしています。

政労使会議の議題について議論した経済財政諮問会議（16日）では、経団連の榊原定征会長らが、企業収益を拡大するため「労働生産性に見合った賃上げ」が必要だとして、「賃金体系のあり方の再検討」を提起。「年功序列型賃金カーブの

是正」を行い、「仕事・役割・貢献度に基づく賃金制度」を導入すべきだと主張しました。

リストラ支援も

これまで経団連は、「年齢や勤続年数に偏重した賃金制度から、『仕事・役割・貢献度』を基軸とする賃金制度」とすることが望ましい（07年5月15日）と主張。能力・成果主義の賃金に変えて、会社による査定で賃金抑制を行ってきました。もはや多くの大企業で「年功序列型賃金」など存在しません。

ところが、経済財政諮問会議では甘利明担当相も「賃金のピークが定年のほうに寄ってきている」などと言って賃金制度の見直しを主張しました。消費税増税とアベノミクスのもとで物価が上昇するなか、賃上げを求める世論が広がるのを恐れ、賃金が上がらないのは賃金体系に問題があるかのようにすりかえて、賃金を抑え込む狙いです。

さらに榊原氏らは、「成果を重視した働き方を労使協調の下で実現すべきである」と主張。労働時間規制をなくす「残業代ゼロ」制度や低賃金で解雇しやすい「多様な正社員」の導入や、大企業などのリストラを支援する「労働移動支援」についても議題とする考えを示しました。

前回合意に背く

これらは事実上の賃下げを進めるものであり、「賃金上昇によって経済の好循環を実現する」とした前回の政労使会議での合意にも背く姿勢です。

しかも、非正規労働者の切実な労働条件引き上げについては、「意欲と能力に応じて」と条件を付けて抑え込もうとしています。

長年にわたる賃金抑制が消費を冷え込ませ不況を長期化させたことから、賃上げは「論外」としてきた経団連も「ここ数年と異なる対応も選択肢となり得よう」（経営労働政策委員会報告）と、今年の春闘では賃上げを容認せざるをえなくなりました。

しかし、家計の再建にはほど遠く、安倍首相も同会議で「今でもまだデフレ脱却にはなっていないので、来年も引き続き収益をしっかりと賃金に回していただくことによって消費を喚起し、好循環を維持できる」と述べざるをえないのが実態です。そういいながら、賃下げや賃金抑制を進めようとすれば、国民・労働者から厳しい批判は免れません。

2014年9月28日

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗
日刊●月 3497円
日曜版●月 823円

防災訓練

この所、週末は好天に恵まれ何よりですね。そうした中、二十三日には町の防災会が主催する防災訓練が行われました。会場では地震の揺れの疑似体験や倒壊家屋の下敷きになっている人の救助方法、担架の作り方や土嚢袋の詰め方や積み方を四班に分かれて実習しましたんで、自分としては身に付けた事を如何に広げて行くかがこれからの各地域防災会の役割かなと感じています。

また、避難所(けやきホール)に入って実際に避難生活をどう進めて行くのか等々について、防災士会の方から話を伺い、班分けされているグループ毎に、「こう言う場合はどうするか?」と言う

テーマを与えられ、その解決方法を相談し合いました。三人よれば文殊の知恵では有りませんが、なかなかのもんで、これまでの実生活を通じての経験等々も活かしながら策を導きだす等、どのグループからもある手立ての回答が聞かれました。講評では、「川西町の皆さんは思いやりが有って、何と優しい考えを持つているんだろうと関心した」との事でしたが、「これは、今日は平常時だからの事で、いざ被災してパニックでいたら同様の解決策が出たかどうかはまた別物」との事でした。

川西町議
会議員
芝和也



エンディングノート

先日、広陵町の「新婦人の会」でエンディングノートの書き方の学習会があると聞いて参加させていただきました。若いケアマネージャーの正木文子氏によるわかり易い説明で、参加されている高齢者の方々は和やかな雰囲気の中でも、真剣そのものでした。

正木氏の報告によると現在、全国で六五歳以上の方は三二九六万人いて総人口の二五・九%にあたり、内八人に一人が七五歳以上と言う高齢者社会を迎えています。私も高齢者ですので、もし重病になったり痴呆になったり、そして死亡した時は・・・と考えると残された家族は決断を迫られる迷ってしまう事でしょう。本人が前もって希望を言っ

ておけば、望まない介護や葬儀をされてしまう事にはならないのでは。エンディングノートには「家系図」「介護、看病、延命治療の希望」「財産」「葬儀の希望」など数ページに渡り、書店でもいろんな種類があるそうです。

「新婦人の会」の人たちは「私は棺の中に(好きな俳優の写真)入れて欲しいわ」「私は出棺時に流す曲を決めてるの」「お墓は? 永代供養? 散骨?」と明るい会話。私は断捨離もしながら後に残された者の負担を軽くする意味でも、人生の幕引きは人任せではなく、エンディングノートに真剣に取り組もうと思いました。

田原本議
会議員
森 良子



東小学校運動会

先日、真つ青な秋空の元、東小学校の運動会に参加しました。

今年の運動会のスローガンがプール横のフェンスに掲げられていました。「あつくなれよ! New er give up!」驚きました、なんと英語でした。

小学校の英語教育の影響でしょうか? 日頃使っている1年生でも解るということでしょう。

毎年、「借り人競走」で走ることを楽しみにしているんですが、今年は本部席が北に移動していて参加しにくくて、結局一回も走れませんでした。残念です。

しかし、「みんなであつなごう」でパン喰い競走

に、「かごいっぱいになあれ!」で玉入れに参加しました。思うようにいきませんでした。主役は子どもたちです。全校生約百人ですが、「きらきらきつず☆」では低学年生が元氣いっぱい弾んでいました。「ヒガシンピック」では、先頭を走っていた女の子が平均台から落ちて、何回やり直しても上手にいかず泣きながらゴールしました。辛かった と思います。が、一生忘れられない思い出ができたと振り返れるぐらい楽しい学校生活を送つてほしいものです。

田原本議
会議員



憲法と原発②

吉井英勝(元衆議院議員・参議院議員) 講師は9月20日の講演の中で、原子力発電に頼らないためにどうしたらいいのかという事に対して、エネルギーでも地域開発でも原発依存から抜け出すことが大事と強調されました。

そのためには、「再生エネルギーの爆発的普及」させることがキーワードになる。そのための仕事、間伐材の利用、地熱の利用、水力、風力、バイオマスの利用など、仕事を農林漁業・中小企業に廻すことで持続可能な日本社会が築いていける。たとえば在日米軍基地の面積を太陽光発電に替えると柏崎刈羽発電の2か所分

(原発14基分)の発電が得られる。

そして、先日、学会で議報告が「原発の稼働で発生する使用済み核燃料や再処理後の高レベル放射性廃棄物(核のゴミ)」に関して、再稼働を判断する際、新たに発生する高レベル放射性廃棄物を暫定的に保管する施設を電力会社の責任で確保することを必要条件にすべきだとする報告書をまとめました。」と言っています。吉井さんも使用済み核燃料については処理処分も廃炉技術などもまだ科学的に未確立なので再稼働などは論外。直ちにエネルギー政策の転換が必要と力説されました。

三宅町
池田年夫

